

龍谷の教育

No.156

2020.Autumn

〒840-0054 佐賀市水ヶ江3-1-25 電話 0952-24-2244 FAX 0952-24-3828 URL <https://www.sagaryukoku.ed.jp>

心と力をひとつに



「信用と信頼」



教頭 原田 淳

学校は、小社会と言われている。それは、学校が社会の縮図であることを意味する。学校において経験する人々、培われる能力は社会にも通ずる。だからこそ、教育活動に関わる教師や保護者の果たすべき役割は重大なのだ。

強くたくましく成長するだけでなく、いかなる組織や集団においても、なくてはならない存在となり、社会に貢献できる人になつて欲しい。これは、子どもたちと向き合うなかで教師として、また保護者の立場として、常日頃考え願つていることである。その実現に最も大きな課題となるのは、人間関係を構築する力だろう。子どもたちは、これから先、多くの人と出会いながら、自分がやりたい仕事を模索し、やがては従事することになる。そして、自分の役割を理解し、行動するなかで、一人では何もできないし限界があることに気づくだろう。社会は、人ととの関係、信頼によつて成立することを痛感することになるのだ。

信用とは、それまでの業績などから客観的に判断して信じることであり、過去の実績や成果に基づく、物質的なものである。それに対し、信頼とは他者の未来の行動を信じて期待することであり、主観的・精神的なものである、と辞書に記されている。何事か成そうと思えば、自身が頑張ることは当然であるが、チームの構成員やパートナーが信用できない、あるいは信頼できぬ状況では結果は残せないはずだ。

私は本校野球部の監督時代、在校生が甲子園のアルプス席を必ず一度は経験で

きるよう、3年に一度は甲子園出場が果たせるチームづくりを念頭に置いて、取り組んでいた。結果としては、約18年間で、あと一つ勝てば甲子園という機会が5回であり、2度しか出場できなかつた。しかし、いかに信用・信頼できる生徒を育成するかということが、最も重要なのは確かだ。心の中でできると認められる生徒、信用できる生徒を判断し、大会に臨むことが勝つためには必要であつた。だが、信用する少數の生徒の力だけでは戦うことができない。チームで戦うのだから。

「人間である以上、能力差は必ず存在する。しかし、取り組む姿勢に差があつてはならない」これが、個性を尊重しつつも、部員に求めていたことだ。生徒一人一人の心技体を成長させるだけでなく、チームに貢献するために何をすべきか考え行動する姿勢を身につけさせてきたつもりだ。それが、信頼しあえるチーム、一つの目標を達成するために戦う集団へと、彼らを近づけていたように思う。これは、何もスポーツの世界だけではない。学問の世界においても、コースやクラスなどの集団に同じようなことが言えるだ

る。個人やチームの目標を達成するためには、信頼しあい、共に目標に向かって邁進する、そんな環境づくりが大切なことである。「いのち」「未来」「心」「愛」「絆」「友情」「信頼」こういうものは目に見えません。見えないから不安になります。信じられないから、その代わりに、何か形のあるものを人は求めようと、信じようとします。「言葉」であつたり、「数字」であつたり、「行動」であつたり…。科学技術が発展し、数値によって様々なものが判断、評価されようになつて、私たちは目に見えるものに信頼を寄せてきました。経済を発展させたり、勉強の偏差値やスポーツの勝ち負け、そういうものは確かに数値が必要だし、それを全否定はしません。共通の判断材料は必要だからです。しかし、その一方で、それに一喜一憂しすぎて、大事なものを置き忘れていた、それに気べきことを十分に理解し、取り組む姿勢や意欲を前面に出すことでの結果を得ることはできるはずだ。生徒たちには、強い心を持つて、そうがんばつて欲しい。それができれば、段々と機会に恵まれ、いすれば結果を残し、信用される人間にもなれると私は信じている。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」

サン＝テグジュペリ作の『星の王子さま』に出てくる有名な言葉です。子どもたちの頃から寝物語に読んでもらつて、愛読書であり、人生のバイブルでもあります。子どもの時は全く違う言葉の感じ方、その面白さにも今気づかされていました。この言葉は、おそらくほとんどの人が「当たり前」と思うものかもしれません。私自身も、学生時代まではその通りだと思っていましたし、目には見えないものを信じて生きてこられた、幸せな学生時代だつたとも言えます。この言葉の意味を深く考えるようになつたのは、社会になつて、数年も経つた頃でした。

同朋

星を見るんだ。旅行する人の目

から見ると、星は案内者なんだ。
（中略）だけど、あいての星は、みんな、なんにもいわずにだまつている（後略）

星の王子さまの中にはこんな言葉があります。同じ星を見ても、人それぞれ見え方は違う。感じ方も違う。わかつた気になつて、自分をまず自覚することが大事なのかかもしれません。今の時代、情報だけは溢れかえっています。けれど見え方は違う。感じ方も違う。わかつた気になつて、自分をまず自覚することが大事なのかかもしれません。今の時代、情報だけは溢れかえっています。星を見ると、星は案内者なんだ。
（中略）だけど、あいての星は、みんな、なんにもいわずにだまつている（後略）

星を見ると、星は案内者なんだ。
（中略）だけど、あいての星は、みんな、なんにもいわずにだまつている（後略）

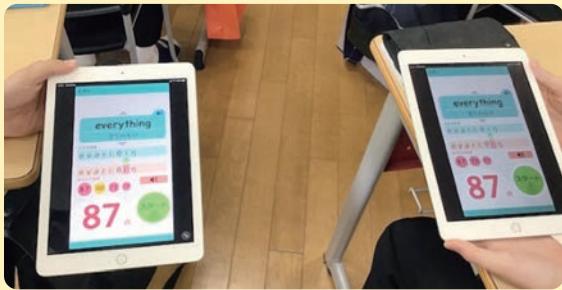
「その人」だったのに、それを見ていないかった。それで悩んだことが、大人になつて多々ありました。信じていたものがなくなるのは辛いことで、その大事なものを見つけるために、自分の中に見えていたものの中にも大事なことはあるということを学びました。それが、そういう経験を通して、見えないものの中にも、見えるものの中にも大事な軸をしっかりと持ち、相手を受け入れる寛容さを養うこと。そして、断ち切る勇気が「普れない自分」がいるかどうかを信じて生きてこられた、幸せな学生時代だつたとも言えます。この言葉の意味を深く考えるようになつたのは、社会になつて、数年も経つた頃でした。

ご参加ありがとうございました 第二回オープンスクール開催

8月4日5日に授業体験型、6日に部活動体験型オープンスクールを実施いたしました。新型コロナウィルスの影響を鑑み、受付時の検温、教室出入りの際の消毒の徹底、休み時間ごとの机や椅子、iPadなどの消毒の徹底、マスク着用を徹底しての実施でした。部活動体験では、プレー中以外のマスク着用などをお願いすることとなりました。ご不便なところも多くあったと思いますが、皆様のご理解とご協力のあかげで、何事もなく終えることができました。心より御礼申しあげます。

また、11月8日(日)に第三回のオープンスクール及び、龍谷模試が予定されています。HPより申し込みができますので、ぜひご参加ください。

(文責 石橋)



2020 オータムコンサート

9月21日、佐賀市文化会館で龍谷高校吹奏楽部によるオータムコンサートが開催されました。昨年度3月に予定していた定期演奏会が、新型コロナウィルス感染拡大の影響により延期・中止となり、今回開催できることに喜びを感じ、感謝の気持ちを抱いております。

開催にあたり感染症対策は重要な課題であり、今後のコンサートについても、検温や消毒、座席制限や時間短縮など、できることをきちんと行いながらの実施になるでしょう。

第一部はクラシックステージ、本校の定番となつた「グローリー・ブリーズ」から始まり、「ブリュッセル・レクイエム」をメインとした構成でした。ゲストとして、藤重佳久先生をお招きし、先生の華麗な指揮に観客は魅了されました。

藤重先生は、精華女子高等学校や活水女子高等学校など、全国の強豪バンドを指導され、奇跡の指導者としてメディアなどでも活躍されている先生です。今回は「ノートルダムの鐘」と「木陰の散歩道」の2曲を指揮してくださいました。

第二部はマーチングステージ、「グレイテスト・ショーマン」をステージマーチングで表現しました。生徒たちはたくさんのスポットライトを浴びながら、楽しく充実した時間を過ごすことができたと思います。また3月に卒業をした部員も参加をしてくれました。全員が出演することは叶いませんでしたが、演奏会を終えての「卒部」をやつと果たすことができました。また、今回は佐賀県視覚障害者団体連合会の方々をご招待し、



(文責 安藤)

J1選手誕生！ サガン鳥栖DF 中野伸哉

本校2年生に在籍する中野伸哉くんが8月1日のFC東京戦に途中出場しました。これは、J1デビュー最年少記録2位を塗り替える快挙でもあります。以降も、鹿島戦、札幌戦と出場を果たし、立派な戦力としてチームに貢献を果たしています。そんな彼に、今回特別にインタビューに答えてもらいました。

(文責 石橋)



©KOICHI.PHOTO

—— デビュー戦ですが、選手交代の際、ピッチに入る前は笑顔も見られ、リラックスをされているように感じました。どのような心境で試合に臨みましたか？

中野：もちろんJリーグに出場できるよろこびがありました。自分の今のプレーがどれだけ通用するか試すチャンスだったのでピッチに入るときはとても楽しみでした。

—— そのとき、監督からはどのような指示を受けたのでしょうか？差支えのない範囲でお願いします。

中野：自分が出場した時は、チームがリードしていて、守備の強度をあげるために入れると言われました。最後に、自信を持ってやってこいと送り出してもらいました。

—— プレイの特徴やどのようなプレイをみてほしいか教えてください。

中野：自分は、しっかりと守備をして、どんどん攻撃にからんでクロスやシュートなどをするところが特徴なので、そこを見てほしいです。

—— これからのお目標や抱負を教えてください。

中野：プロ契約して、Jリーグで活躍し、海外でプレーできるようになりたいです。



佐賀龍谷学園はサガン鳥栖を応援します



9月3日、元ベナン駐日大使であるゾマホンD・C・ル・フィン氏の講演会を実施しました。高校3年生は体育館で、高校2年生はZOOMを使いオンラインで参加しました。年生は以前にも、アフリカでの暮らしについて講演会で学ぶ経験がありましたが、今回はその国で生まれ、生きてこられた方の生の声を聞く貴重な時間となりました。
 「肌の色が違っても、話す言葉が違っても、人は人。みんな兄弟だ」
 「日本の文化を学び、日本の言葉を大事にすることが大事」など、大事なことを教わりました。

ゾマホン氏講演会

人は人、みんな兄弟

杉本真樹先生オンライン講演会

「バーチャルとリアルが繋がるニューノーマル時代の生き方」

テクノロジーを医学に積極的に導入し、医療改革に取り組んでいる医師、杉本真樹先生の講演会がオンラインで行われた。私は2013年頃、彼が神戸大学に所属しているとき、研究室を訪問したことがある。冷蔵庫からおもむろに取り出したのは人間の肝臓だった。しかし、それは本物ではなく、ある患者のMRI（磁気を使って体内の映像を画像にする検査）データを用いて3Dプリンタで出力されたものだった。しつとりと水分を含んだ造形物を3Dプリントできる技術を彼らが開発したそうだ。それ以前は、ペットボトルなどにゴム管を通して通したものや動物の内臓などを使って、研修医や医師が手術の練習をしていたそうだが、3Dプリントしたものを使うと、実際の患者の体内にある臓器を傷つけることなく、切ったりさわったりするなどのシミュレーションが可能になるので、手術する医師の精神的負担を軽減できるのだという。彼は、現在、患者の体内の立体画像を手術中に空中に表示させ、手術する医師で共有するというMixed Reality（複合現実）という技術を用いて、医療界のみならず産業界からも大きな注目を浴びている。



彼は教育の改革にも強い関心を寄せており、未来を作る学生たちの教育に力を入れている。特に、講演会の話題にも出てきた「社会的価値」を重視している。「自分が好きなこと、よいと思ったことを様々な表現手段を用いて、社会の人々に伝えていく。社会に出ると自分ひとりではできないことがあるからこそ、社会にとって役立つことを共有していこう。」と龍谷生に訴えた。また、今までの教育は知識や理論、いわゆるIQの伸長に終始していたが、それは単に知識の詰め込みで、個性に繋がらなかったのだと。これから時代



「バーチャルとリアルが繋がる
ニューノーマル時代の生き方」

は、知識の蓄積はコンピュータが代わりをしてくれる。IQだけでなく、自分や他人の感情や情動をいかにコントロールできるかという能力、EQも重要であり、企業は人材を採用するときに、すでにこの考え方を取り入れ始めているという。さらにCQという創造性を伸ばす重要性を彼は語った。「知的好奇心を育て、自己表現力を高めてほしい、頭の中にアイディアがあるだけでは、アイディアにパワーはない。行動して表現するからこそアイディアに価値が生まれるのだ。」これからの教育においては、生徒が自らの創造性を高めると同時に、社会的価値を高めていきたいと思えるようなマインドを育っていくことが重要である。

（文責 中村）

ゾマホン氏はパワフルでとても面白く、熱い情熱がひしひと伝わってきました。とても気さくな方で、公演中も生徒に語りかけ、休み時間も生徒の中に入つては様々なコミュニケーションをとつてくださいました。生徒にはこの経験を活かして大きく世界に羽ばたいて欲しいと思います。本当にありがとうございました。

以下、生徒たちの感想になります。

（文責 石橋）



「改めて日本で生きていることが恵まれているとわかりました。大人になつたら自分のことだけではなくて世界のことにも目を向けられるような大人になりたいです。自分のことだけではなく、周りの困っている人などにも手を差し伸べられるような心の広い人間になりたいです。」

田中 兼道（②佐世保 日宇）



「私たちがとても恵まれている環境にいることを再確認出来た講演でした。アフリカに生まれた人であつても、日本に生まれた人でもヨーロッパに生まれた人でも、人として生まれたからには平等に生きられる権利があると思います。だから、まずは私も現地に行ってみて、海外の現状を把握しなにか行動を起こせたらいいなと思います。」 田口沙瑛夏（③城南）

9月 10日 文化祭



龍谷祭 ~笑顔に輝く2日間~

9月 10日、11日龍谷中学・高校、初の合同開催となる龍谷祭が開催されました。新型コロナウィルス感染拡大防止のため、文化祭・体育祭共に一部例年の形から変更をしたり、フェイスシールド配布などの対策をしたりしながらも、保護者をはじめ皆様方のご理解とご協力を得て、なんとか実施することができました。誠にありがとうございました。

今年のテーマは『協心戮力』。「協心」には「一致団結して物事に取り組む」という意味が、「戮力」には「力を合わせる」という意味があります。困難のなかにも心と力を一つにして、この大イベントを成功へと導いた生徒たちに相応しいテーマだつたのではないかでしょうか。事実、この2日間は今までにないほど、学校が生徒の笑顔に溢っていました。 (文責 石橋)



9月 11日 体育祭

柔道
(9月末までの結果)
部活動二年次

2位 女子立大塚	200m走	優勝	男子立大塚	200m走	優勝
2位 男子立大塚	200m走	優勝	女子立大塚	200m走	優勝
2位 女子航成凜	400m走	優勝	男子航成凜	400m走	優勝
2位 男子航成凜	400m走	優勝	女子航成凜	400m走	優勝
2位 女子(①鍋島)	200m走	優勝	男子(①鍋島)	200m走	優勝
2位 男子(①鍋島)	200m走	優勝	女子(①鍋島)	200m走	優勝
2位 女子(②小城)	200m走	優勝	男子(②小城)	200m走	優勝
2位 男子(②小城)	200m走	優勝	女子(②小城)	200m走	優勝
2位 女子(70秒96)	200m走	優勝	男子(70秒96)	200m走	優勝
2位 男子(70秒96)	200m走	優勝	女子(70秒96)	200m走	優勝

男子総合優勝
(17年ぶり)
男子トラック
1位 3位

◇県高校新人陸上競技大会(9月19～21日 SAGA)
男子総合優勝
(17年ぶり)
男子フィールド
1位 3位

男子総合3位	やり投げ	47m75	2位 内橋 健成	走り高跳び	1m85
男子フィールド2位	棒高跳び	4m10	3位 小野 光槻	三段跳び	15m00
男子フィールド2位	川久保賢斗	4m10	3位 林田 悠吾	川久保賢斗	15m00
男子総合3位	(②)小城	(②)福 富	男子4×100mリレー	(②)福 富	(②)福 富
男子総合3位	後藤・林田・立山・川原	42秒93	女子4×100mリレー	後藤・林田・立山・川原	42秒93
男子総合3位	永松・大塚・辻・下平	49秒74	男子4×100mリレー	永松・大塚・辻・下平	49秒74

◇SAGA 2020 OSSP杯 陸上競技(7月23日～24日 SAGAサンライズパーク)
男子個人(73キログラム級)
3位 古川 蒼太(③大和)

龍谷祭各団コメント

龍谷祭でみんなを引っ張りまとめてくれた各団長たちのコメントです。



青団団長 大坪花のん(3-5)

皆さん、2日間の龍谷祭おつかれさまでした。

今年度の体育祭は、様々な制限がある中で、ルールを守りながらも全力で楽しめたと思います。

応援団の話し合いの中で、団長という大役を任せられることになり、「自分はたくさんの人の前で大きな声を出して指示できるのか。練習もやりきれるのか。」ということばかり考えていた日もありました。団長会議の時に、「声出し禁止、実施競技も減ります。」と言われたこと、それに加え、練習期間に入ってすぐ台風で休校になってしまったことなど、悔しい思いもたくさんしました。

しかし振り返ってみると素晴らしい思い出ばかりです。初めて青団全員で集まったとき「いよいよ今から始まるのか」とワクワクしました。体育祭当日も、朝一番のエール交換で、どの団からも笑顔が見られていいスタートが切れたなと思いました。また、中学生も、各団少人数の中、競技の応援を一生懸命してくれました。

青団のみなさん、本当にありがとうございました。

最後に青団のみなさんへ。青団が三冠を獲れたのは皆さんのがルールを守り、全力で楽しんでくれたからだと思います。高校最後に最高の思い出をありがとうございます。青団の団長ができて本当によかったです。龍谷祭は終わりましたが、これからも声をかけあい仲良くしましょう！



赤団団長 本村 天音(3-6)

高校生活で部活動にも入っておらず、1つの目標に向かって全力で取り組むという機会が少なかった私が、高校最後の体育祭という大きな舞台で何かできないかと考えたのが団長に立候補したきっかけでした。

団長に決まつたとき、自分で「この全員がケガなく元気に終わる」という目標を立てました。

最初はみんなをまとめるのが難しく、何かを指示するときにどう伝えればよいかや、本当に私が団長でよかったのかと、とても悩みました。そんな時、団員のみんなやクラスの仲間が「大丈夫だよ！」「天音ならできる！」と前向きな言葉をかけてくれました。私自身も、体調の悪くなる人はいないか、けがの危険はないかなど注意や声かけを積極的にしました。

今年度は、コロナウイルスの影響で龍谷祭の開催が難しい中で、先生方や生徒会の皆さんのが色々なことを考えてください。無事開催できることに感謝したいと思います。

そして赤田のみなさん、最後まで本村天音についてきてくださってありがとうございました。とてもよい思い出になりました。



自団团长 野中あきひ(3-8)

私が団長に立候補しようと思ったきっかけは、去年、白団応援リーダーをしていたとき、団長のかっこいい姿を見て「自分もあんなふうになりたい」と思ったことです。

今年は人數などの調整により例年とは違う団の構成だったので、団長に決まった当初は「頑張ろう」という気持ちの反面、「心配だな」という気持ちの方が強かったです。

新型コロナウイルスの影響で、毎年恒例のパネルが中止になりました。その代わりに、白団はビニールテープで作ったポンポンを使った応援演出をすることに決めましたが、団員260名分のポンポンを作るのは本当に大変でした。でも、応援リーダーや団席のみんなが文句一つ言わずに手伝ってくれたので助かりました。リーダーたちの演舞も、団席のポンポンの演出も私の中では全く全くの一番の演技でした。

このような大変な時期に、龍谷祭を開催してくださり、先生方や生徒会の皆さんには本当に感謝しきれないほどです。

◇第72回佐賀県高等学校席書大会(7月26日)

書道部	△2020年第1回佐賀県高校生水泳大会兼高校生新人戦(9月6日) SAGAサンライズパーク水泳場)
5 位 清原 亮然 (①熊本本渡)	男子 50m 自由形 25秒71 男子 100m 自由形 57秒68 内川 結友 (②鍋島) 内川 結友 (②鍋島) 男子 50m 平泳ぎ 33秒16
6 位	4 位 内川 結友 (②鍋島) 男子 100m 自由形 57秒68

△2020年第1回佐賀県高校生水泳大会兼高	水泳	◇SAGA 2020 SSP杯 野球競技(7月31日～8月4日) みどりの森県営球場)
優勝	優勝	△2回戦
決勝	準々決勝	△3回戦
勝	龍谷	龍谷谷谷
	龍谷	龍谷谷谷
決勝	8-7	6-3
	敬徳	佐賀西
	9-3	有田工業
	唐津商業	佐賀西

力を合わせて、龍中前進!!

龍谷中学校 2020二学期

中学校

中高合同「龍谷祭」、

大いに盛り上がる

龍谷生のパワー全開、一致団結!



9月11日（金）に行われた中学校・高等学校合同の体育祭。中学生も高校生に負けず、元気いっぱいに競技、ダンス、応援と持てる力を存分に發揮しました。

今回、中学生全体をまとめて活躍した演舞長・岩野 凛さん（③旭）、ダンス長・廣本 隼さん（③西川副）のコメントを紹介します。

私は、今回の中高合同体育祭を通してたくさんのことを学ぶことができました。演舞長として中学生全体を引っ張つていく中で特に大変だったことは、長として何かをしっかりと決断すること。一・二年生のお手本としてしつかりまとめる二つのことです。

しかし、練習時間が少なかつたにもかかわらず、本番の体育祭当日は、みんなで声を出して盛り上げることができ、とても一瞬のことのように感じました。いろいろと大変なこともありましたが、演舞長を務めて本当によかったと思いました。この経験は今後の自分の糧になると思います。

また、積極的に協力してくれた一・三年生、ついてきてくれた一年生に心より感謝したいと思います。

演舞長 岩野 凛

私は、この体育祭でダンス長を務めました。特に一・三年生が協力してくれたおかげで、本番に間に合うことができました。長の仕事をしてみて、仲間で協力し合うことの大切さや教えることの難しさがわかりました。体育祭を通してみんなが大きく成長できたと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

ダンス長 廣本 隼

中学生が取り組む様子を高校生全員が温かく見守り、たくさんの手拍子や拍手で激励する場面が度々見られました。まさに、「チーム龍谷」を実感できる感動的な体育祭でした。高校生のみなさん、ありがとうございました。



「今だからこそつながる」

二年生 德森真鳳さん、少年の主張大会にて入賞



令和2年度「第42回少年の主張佐賀県大会」が、8月23日(日)、アバンセホールにおいて開催され、本校の徳森真鳳さん(②赤松)が優良賞に選ばされました。

当日は、県内から応募された632作品の予選審査を通過した8名の中学生が、普段考えていることや社会に向けてのメッセージなどを堂々と発表しました。

徳森さんのテーマは「今だからこそつながる」。

自身の県内にある島留学を通して経験したことや気がついたことを表現力豊かに発表しました。特に、島民との交流で身についた様々な生きる力。そして、人の「温もり」の大切さ、人々への感謝の気持ちなどを力強く訴えました。

入賞おめでとう

剣道部

- 第57回佐賀市中学校剣道競技大会(7月25日)
 - 女子団体3位 大田梨華(③白石)・小川なな(②千代田西部)
大曲遥寧(①銀水)・川内丸美緒(①千代田中部)
 - 宮崎優亞(①北方)

書道部

- 第11回佐賀県中高一貫中学校席書大会(7月26日)
 - 特選 岩野凜(③旭)
 - 入選 梶原佑月(②神埼)

個人部門

- 令和2年度赤い羽根「標語」コンクール
 - 優秀賞 梶原佑月(②神埼)
 - 入選 藤戸久遠(②千代田東部)
- 第42回少年の主張佐賀県大会
 - 優良賞 徳森真鳳(②赤松)
- 第23回人権意識高揚のための標語コンクール
 - 佳作 吉田理沙子(②赤松)
 - 入選 奥田怜子(③勧興)
 - 岩野凜(③旭)
 - 岩野凜(③旭)

- 第70回理科作品展(佐賀市)
 - 特選 徳森真鳳(②赤松)
 - 毛筆の部
 - 入選 徳森岩野
 - 特選 徳森岩野

- 令和2年度佐賀市七夕書き方会
 - 硬筆の部
 - 入選 德森大石
 - 特選 德森大石

- 毛筆の部
 - 入選 德森大石
 - 特選 德森大石
- 硬筆の部
 - 入選 宮崎奥田
 - 特選 奥田廉太郎
- 宮崎優亞(①北方)

Topic
1**2021年度以降入学生を対象とした給付型奨学金スタート！**

龍谷高校からの2021年度以降入学生は、大学独自の給付型奨学金（2年間で最大48万円）が受けられます。（ただし半年ごとに学修状況等で見直し有り）

国修学支援新制度（国の授業料減免制度）に該当する学生はさらに負担が軽くなります。経済的な不安を減らして、ぜひ本学で学びたいことにチャレンジしてください。

Topic
2**10/17(土)・10/31(土) ミニオープンキャンパス開催です！**

例年、秋には終了しているオープンキャンパスですが、今年はミニオープンキャンパス（個別進学相談会）として、まだまだ開催します。進路に迷う3年生、進路が気になりだした1、2年生、さらに中学生の方も参加可能です。超実践的コード伴奏ピアノレッスンをお試しできるチャンスもありますよ。

3密を避けるため完全予約制です。下記LINE公式アカウントの専用フォームからお申込み下さい。



マスクをしよう



消毒しよう

LINE公式アカウントは
こちらから★Topic
3**九州龍谷短期大学のYouTubeチャンネルは随時更新しています！**

学内の雰囲気や、気になる授業の様子などをお伝えしています。映像・放送コースの学生が手掛けた動画もUPしました。登録をして、ぜひご覧ください。

**後期授業 開始しました**

当面の間は、対面・遠隔・オンラインを併用する形で行います。

**オンライン個別相談会実施中！**

10月の(木)(金)の午後に実施しています。
詳細はLINEやHPをご確認ください。

幼保連携型 認定こども園

九州龍谷短期大学付属

龍谷こども園**“新型コロナウイルス感染症”対応中
こども園の手指消毒風景♪**

◎毎月の誕生会は、3・4・5歳児の園児を2グループに分けて行っています。

◎ランチルームの配膳は1学年ずつを行い、向かい合わせにならないように

交互に座って給食を食べています。

◎秋の遠足は、各自で森林公园へ（現地集合・現地解散）。

現地では、手指消毒をして、間隔を取りながら楽しく遊びました。

◎運動会は、高校体育館を会場とし、十分に換気をしながら実施します。

当日は、子どもも大人も検温と手指消毒を行います。

**★満3歳児クラスが始まりました！**

満3歳児クラスが始まりました。

誕生日が来て、満3歳になった翌月から入園可能な1号園児さんが9月から単独クラスになってスタートしました。肥後先生と原口先生と一緒に9:00～14:00まで、園生活を楽しんでいます。



九州龍谷短期大学
学園だより

TEL
0942・851121
鳥栖市

佐賀龍谷学園が設置する学校
(短大・高校・中学)に、兄弟、
姉妹が二人以上在籍する場合、
二人目以降のお子様の入学金が
減免されます。
詳しく述べては、各学校事務室まで
お問い合わせください。